

# がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

第39号

平成24年1月発行

発行

愛知県がんセンター

Tel. 052-762-6111(代)

## 「傾聴ボランティア」の活動について

相談支援室

医療ソーシャルワーカー

大橋信彦

がんセンターで活動いただいているボランティアの中に「傾聴ボランティア」があります。当院には相談窓口として、「相談支援室」があることは、以前にがんセンターNEWSでご案内させていただきましたが、ご相談を受ける中で、同じ患者さんの立場の方と話がしたい、相談に乗ってもらいたいというご希望も多く寄せられていました。

そこで本年4月より、毎週月曜日の午前中に「ピアサポーターによる傾聴ボランティア」を開始しました。

「ピアサポーター」の「ピア」とは「同じ立場」「仲間」を意味する言葉だそうです。

ピアサポーターの方々は「がんの治療体験者が体験からの学びを活かし、がんにかかった方々の悩みや不安を共感的に受け止め、ともに問題解決にあたる役割」としてご活躍いただいています。

みなさん約1年をかけてトレーニングを行ない、相談に必要なスキルを身につけられた方ばかりで、患者さんの思いを心ゆくまで傾聴し、自身の体験を参考例として紹介したり、患者さんの求める情報とともに探すことで、問題の解決へ導かれたりされています。

相談された方の中には「とても参考になった」「じっくり聞いてもらって自分の考えが整理できた」などの感想も多くいただき、リピーターも増えています。

今後も病院の「相談支援室」と病院とは一步離れた立場である「傾聴ボランティア」を両輪とし、患者さんやご家族を支えていきたいと思っています。



## 呼吸サポートチーム(RST)の紹介

看護部

2010年度より、当院では呼吸サポートチーム(以下RST)を立ち上げました。RSTは、以下の4名から構成される「人工呼吸器離脱のための呼吸ケアに関わるチーム」のことで、

- ①人工呼吸器管理等について十分な経験のある専任の医師
- ②人工呼吸器管理や呼吸ケアの経験を有する専任の看護師
- ③人工呼吸器等の保守点検の経験を3年以上有する専任の臨床工学技士
- ④呼吸器リハビリテーション等の経験を5年以上有する、専任の理学療法士



Dr 波戸岡



Ns 山口



ME 水野



PT 渡邊

RST構成メンバー

集中治療部長(波戸岡俊三医師)・集中ケア認定看護師(山口真由美)・臨床工学技士(水野友絵)・理学療法士(渡邊美紀)の4名が主なメンバーです。今年度から呼吸サポートチーム委員会が正式に活動を開始し、各病棟にも担当ナースがおります。RSTの介入対象となる患者さんは



ラウンド風景

- 48時間以上継続して人工呼吸器を装着している患者であること(術後抜管する予定の患者は入らない)。
- 次のいずれかに該当する患者であること
  - ・人工呼吸器を装着している状態で当該病棟(集中治療室:ICU4床を除く病床)に入院(転棟・転床)した患者であって、当該病棟に入院(転棟・転床)した日から起算して1ヶ月以内の患者
  - ・当該病棟に入院した後に人工呼吸器を装着した患者であって、装着した日から起算して1ヶ月以内の患者

とされています。

主な活動内容としては、人工呼吸器を早く外すことができるよう主治医・担当看護師とともに呼吸器の設定や薬剤の使用法、体位管理など医療的側面と看護的側面からアドバイスをしています。また安全な呼吸器管理のための保守点検や呼吸器装着による筋力低下に対してのリハビリテーションなど介入は多岐にわたります。

これからも呼吸器装着を余儀なくされた患者さんが、より安全にできるだけ早く呼吸器から離脱できるようサポートしていきます。

研究所からの報告 **EBウイルス(EBV)がん遺伝子LMP1の発現の仕組み**

—腫瘍ウイルス学部— 鶴見 達也



腫瘍ウイルス学部 部長  
鶴見 達也

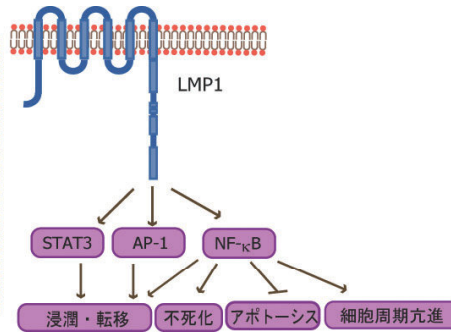
腫瘍ウイルス学部ではヒトがんウイルスであるEpstein-Barrウイルス(EBV)の研究を行っています。EBVはバーキットリンパ腫、上咽頭がんを始め、多くのがん(胃がん、ホジキン病、T細胞リンパ腫、臓器移植後リンパ腫等)に感染し、がんの発症・維持に関係しています。特にEBV がコードするLMP1はEBV陽性がんが発現するウイルスがん遺伝子として世界中でその研究が進められています。最近、我々はLMP1発現を活性化する宿主因子の探索を行い新規の転写因子としてC/EBPを見つけました。LMP1には二つの転写プロモーターが存在することが知られていますが、C/EBPはLMP1の近位(ED-L1)プロモーター上の一か所のモチーフに結合し、近位(ED-L1)と遠位(TR-L1) 双方のプロモーターを活性化し、LMP1の発現を促進

していることを明らかにしました(Noda et al. J.Biol. Chem. 2011)。

LMP1の研究はEBVによる発がんメカニズムの理解や予防、治療法の確立に結びつくことが期待されています。

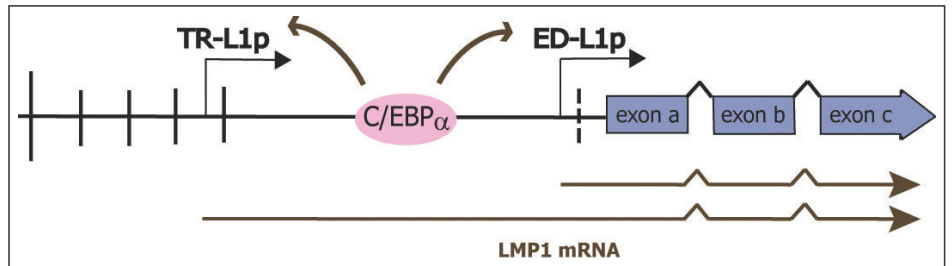
<Latent Membrane Protein 1 (LMP1)>

- ・ EBV における主な癌遺伝子。
- ・ 細胞膜に局在する6回膜貫通型膜タンパク質。
- ・ このシグナル経路を通して、浸潤転移の促進、不死化、アポトーシスの抑制、宿主細胞の増殖をもたらす。



上:図1 LMP1によるシグナル伝達

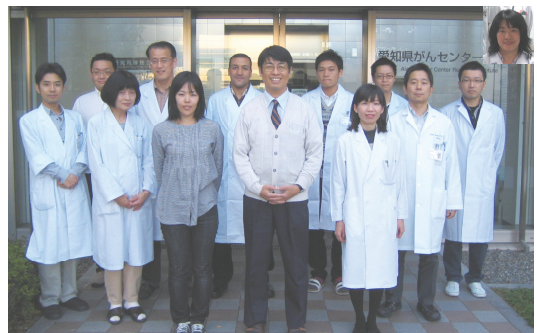
右:図2 LMP1転写プロモーターはED-L1pとTR-L1pが存在し、C/EBPはLMP1の近位(ED-L1)プロモーター上の一か所のモチーフに結合し、近位(ED-L1)と遠位(TR-L1) 双方のプロモーターを活性化している



◆研究員の紹介

研究所～分子腫瘍学部～

分子腫瘍学部では、がんを分子レベル・細胞レベルで解明し、新たな診断法や分子標的治療の開発を目指した研究を行っています。現在、悪性中皮腫、肺がん、消化器がん(大腸がん、肝がん)、脳腫瘍などについて精力的に取り組んでいます。研究員は関戸部長以下、長田、近藤の両室長、藤井主任研究員、リサーチレジデントの石黒、名大連携大学院生の新城、他大学から勉強に来ている任意研修生4名です。他に2名の技師、また、実験補助の非常勤スタッフの協力を受けて、日々新しい発見を目指して研究を行っています。



分子腫瘍学部の研究員・スタッフ一同

中央病院からの報告

適正かつ安全な輸血のために —輸血部— 木下 朝博

1. 輸血療法とは

●血液中の「赤血球」や「血小板」などの細胞成分や、「血漿」成分に含まれる凝固因子などの蛋白質成分が、量的に減少・機能的に低下した時に、その不足した成分を補充することにより、臨床症状の改善をはかる治療法です。

●輸血療法の原則は「成分輸血」です。成分輸血とは、目的以外の成分による副作用・合併症を防ぎ、循環系への負担を最小限にし、限られた資源である血液を有効に用いるため、全血輸血を避けて、必要な血液成分・必要量を補う輸血方法です。

2. 輸血部の業務

●輸血部では、良質で安全な、「がん医療」を提供するため、病院各部門と協力し、「適正かつ安全な輸血療法」に必要な、以下の業務を行っています。

- ★ 輸血製剤の確保・保管・管理
- ★ 輸血検査の実施
- ★ 緊急輸血体制の確立
- ★ 自己血輸血の推進
- ★ 院内輸血療法の指導
- ★ 医療安全への取り組み
- ★ 輸血委員会の運営
- ★ 造血幹細胞採取および移植への協力
- ★ 日本赤十字血液センターとの協力



輸血部長兼血液・細胞療法部長  
木下 朝博

3. 特定生物由来製品としての輸血製剤

●輸血用血液・血漿分画製剤などの医薬品は、「特定生物由来製品」に分類され、法律等により、①適正使用、②患者さんへの説明、③使用記録の作成・保存、④情報の提供、⑤副作用・感染症報告が、定められています。

4. 「適正かつ安全な輸血療法」のために、患者さんにご理解・ご協力をお願いします。

●輸血製剤のリスクと有効性・安全性・適正使用の説明後に、ご理解の上、ご同意下さい。

●血液型検査結果をお知らせしますので、ご自身の血液型をご確認下さい。

●ベットサイドで、患者さんのお名前・血液型・輸血製剤が一致していることを、スタッフと一緒にご確認下さい。

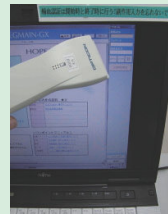
●輸血中・後の副作用の有無と症状についての問診には、遠慮せずにお答え下さい。

★輸血部の詳細について、ぜひ、ホームページもご覧下さい。

<http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/400/410/411/411-08.html>



【図1】照射赤血球濃厚液(左)・照射濃厚血小板(中)・新鮮凍結血漿(右):不足した各血液成分を補い(成分輸血)、症状の改善をはかります。



【図2】コンピューター端末とバーコードリーダーによる電子認証:輸血に際して、医師の指示内容・輸血製剤・患者さんが一致することを確認します。



【図3】血液成分分離装置:造血細胞移植術のため、臨床工学技士が、末梢血幹細胞採取に協力します。

◆診療医の紹介

中央病院～血液・細胞療法部～

血液・細胞療法部では悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、白血病などの血液がんを中心とする血液疾患の診療を行っています。木下、山本はJCOGリンパ腫グループで臨床試験の主任研究者を務めており、田地は造血細胞移植学会・移植研究グループ・骨髄バンク等と連携し活動しています。当部では最新・最良の血液がんに対する医療を提供するとともに、新しい治療法や新薬の開発を推進して、医療技術の進歩に貢献するよう努めています。



左から 田地 浩史医長、木下 朝博部長、山本 一仁医長  
後列左3人目から

村上 五月医師、稲垣 裕一郎医師、小野田 浩医師

中央病院からの報告

臨床検査部では

—臨床検査部— 谷田部 恭

臨床検査部は院内で行われるさまざまな検査を行なっています。近年ではがん治療の専門化にともない、高い技術が必要となる検査も多く、それぞれの専門に基づいた6部門(血液検査、生化学・血清検査、生理機能検査、病理・細胞診検査、遺伝子検査、細菌検査)で対応しています。

\*血液検査では、血液細胞の数を計測し、抗がん剤が安全に使えるか評価します。また、白血病などの診断はこの検査がもとになっています。



血液検査、生理検査、生化学・血清検査の担当者

\*生化学・血清検査では、LDHや肝酵素、コレステロールなどの血液中に含まれている成分について検査します。多くが自動分析装置によって解析されます。腫瘍マーカーもこの検査でわかります。

\*生理検査では、手術が安全に行えるか心臓と肺機能を検査します。また乳腺超音波検査・ピロリ菌呼気試験なども行っています。



病理・細胞診検査、細菌検査の担当者 「最前列中央:谷田部部長(筆者)」

\*病理・細胞診検査では、生検組織・手術組織の病理診断を行い、腫瘍の確定診断と進行度合いを検査します。

\*遺伝子検査部門では、腫瘍の遺伝子変異検査を行っています。この変異の有無が抗癌剤への感受性予測に役立てられています。



遺伝子検査、病理検査の担当者

\*細菌検査部門では、感染症があるか、あればどのような薬の効果があるか検討しています。

◆診療医の紹介

中央病院～薬物療法部～

われわれ薬物療法部はこの5人のメンバーで、消化器がん(特に胃がん、大腸がん、食道がん)を中心に、頭頸部がん、胚細胞腫瘍、原発不明がんといったがん種の全身化学療法を行っております。近年の薬物療法の進歩は著しく、標準的な化学療法は勿論、国際共同治験や新薬の臨床試験など他の施設ではできない治療も積極的に行っており、その数と質はわが国でもトップクラスです。また最近では化学療法の多くを外来治療として行っております。消化器がんの化学療法は私たちにお任せください。



前列中央 室主部長  
後列左から 高張大亮医長、設楽紘平医長、宇良敬医長、近藤千紘医師(前列右)

## 中央病院 新任医師の紹介



消化器外科部

木村 賢哉

常滑市民病院より赴任して参りました。大腸がんの手術を専門としています。病気の進行度と患者さんの状態に応じて最適と考えられる治療方法をわかりやすく説明し、十分ご理解いただいたうえで治療をすすめるよう努めて参ります。



## 公開講座のご案内

平成23年度愛知県がんセンター公開講座

「がん医療の温故創新:がんの予防から診断・治療まで」

テーマ:消化管のがんを知りつくそう

開催日時:平成24年2月5日(日)

開催場所:愛知県産業労働センター

ウインクあいち 小ホール2

問合先 :愛知県がんセンター運用部管理課 公開講座係

TEL 052-764-2904

HP <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

## 外来診療案内

受付時間	午前8時30分～11時30分 (自動再来受付機による受付は午前8時からできます。)
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、緩和ケア科(精神腫瘍科・リンパ浮腫外来・ペインクリニック)、専門外来(禁煙外来)
外来診療担当一覧	毎月1回、月初めに更新しています。 詳しくはホームページをご覧ください
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。
ホームページ	<a href="http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/">http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/</a>

※再診予約制:診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911(直通) 午前9時～午後5時(土・日・祝・年末年始を除く)

※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。(完全予約制・自由診療)

※精神腫瘍科及び禁煙外来は、予約のみの対応です。

## 交通のご案内

## ★公共交通機関のご案内

地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘」駅2番出口から徒歩7分

市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩4分

## ★車でのアクセスのご案内

## ◎一般道路

本山交差点から北へ5分、平和公園の北西

## ◎高速道路

東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分

名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分



愛知県がんセンター Tel.(052)762-6111 Fax.(052)764-2963

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

愛知県がんセンター

検索